

特定非営利活動法人
福島環境カウンセラー協会報

June 19

2011

2010 年度環境カウンセラー協会の活動内容をまとめたものです。
特集:「東日本大震災」環境カウンセラーにできること。
NPO 法人発足元年のメッセージを載せています。

活動報告

目次

1	会長あいさつ「NPO 法人設立に寄せて」	会長 長澤 利枝	-----	1
2	特集「東日本大震災」環境カウンセラーにできること		-----	2
	(1) 震災復興へのメッセージ		-----	2
	(2) 懸命に我が子を探す傍らに	長澤 利枝	-----	3
	(3) ニューヨークタイムス (2011. 04. 10) 記載された記事より	長澤 利枝	-----	6
	(4) 長澤先生ありがとう⇄避難先からのお便り	長澤 利枝	-----	6
	(5) しあわせの黄色い竹トンボについて	佐久間 光好	-----	7
	(6) ライフスタイルや社会を見直す機会に	新山 敦司	-----	8
	(7) 災害復旧ボランティア活動	事務局次長 相楽 昌男	-----	9
	(8) 元気なふるさとを創る会からのメッセージ	先崎 福義	-----	10
	(9) 非常事態が見えていないことの恐怖	青木 敏春	-----	11
3.	環境カウンセラー協会活動報告		-----	12
	(1) NPO 法人研修会及び懇親会について	副会長 樽井 俊二	-----	12
	(2) 平成22年度の事業活動報告	事務局長 鈴木 一	-----	13
	(3) 地域の活動状況報告	先崎福義	-----	14
	(4) 「しあわせの黄色い竹トンボ」に託す想い	佐久間光好	-----	15
	(5) 小学校への環境出前講座	長澤 利枝	-----	16
	(6) エコアクション21及び省エネとコミュニケーションについて	副会長 片平 大造	---	17
	(7) 省エネアドバイザー事業の推進	青木 敏春	-----	18
	編集後記		-----	19

1. NPO 法人福島環境カウンセラー協会発足に当たって

会長 長澤 利枝

薫風の清々しい時節を迎えました。会員の皆様ご健勝のことと心よりお喜びを申し上げます。

昨年4月18日より、「特定非営利活動法人」に向け準備を進め、「設立発起人会」を経て9月26日「設立総会」を開催しました。今年2月10日設立登記を完了し、念願の『特定非営利活動法人 福島環境カウンセラー協会』が誕生しました。この間12回の会議を開催し、皆様と議論を深め合意形成を図りました。それを受けて福会長片平様が、認証に係るすべての手続きを致しました。

このようなプロセスを経て、取得しました『特定非営利活動法人 福島環境カウンセラー協会』は、これからの活動がより公的な役割をも担うこととなります。会員皆様のこれまで以上の協力体制が必要です。長きに渡って培って来ました良好な会員同士のつながりと、各人の類まれな能力がバランスよく生かされていくことを、この機にあたり切に望みます。

さて、3月11日千年に一度といわれる大震災に遭遇しました。福島県は、地震・津波そして原発事故により、甚大な被害を受けました。「東日本大震災」です。私ごとですが、南相馬市ですので想像を絶する被害で、約1,000人が津波で亡くなりました。国道6号線東側の美しい海岸と、豊かな集落は、一瞬で壊滅しました。そして、原発事故でほとんどの人々は、避難を余儀なくされました。このような状況の中、会員皆様から安否を気遣うことばが届きました。あいさつの主旨と離れますが、紙面をお借りしまして、改めましてお見舞いの御礼を申し上げます。

「特定非営利活動法人 福島環境カウンセラー協会」は、この「東日本大震災」にどう向き合い、何をなすべきかという大きな課題を突きつけられました。4月27日の役員会でこのことが大きなテーマとなり、活発な議論がされました。6月19日（日）に開かれる「平成23年度通常総会」に於いて、会員皆様方が 福島県復興のために、英知と行動そして結束ある事業を構築していただく場になることを願っております。

これからの活動が、更に裾野を広げていくと同時に、今求められている環境課題に的確に応えていくことを希望しまして、私のあいさつと致します。



長澤 利枝 会長



相馬市エコフェア (2010年11月7日)



南相馬市避難所訪問

2. 特集「東日本大震災」環境カウンセラーにできること

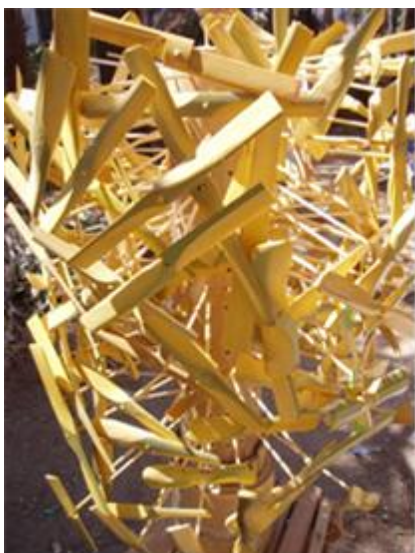
(1) 被災地復興へのメッセージ

この度の「東日本大震災」でご逝去されました方々には、心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

地震と津波だけでも歴史的な被害となっていますが、さらに、狭い日本の国土を震え上がらせている最悪の被害をもたらすことが確実な福島第1原発事故が、2か月以上経った現在でも解決の目途すら立たない状況にあります。今こそ日本の培ってきた技術力を総動員して何としてでもこれ以上の被害が出ないように食い止めなければなりません。あまりにも重大かつ深刻な出来事で、何をしたらよいのかわからないで茫然としていた時期はもう過ぎました。現在を生き抜かねば明日はありません。

今回は環境カウンセラーにできることを特集としてまとめました。

(2) 懸命に我が子を探す傍らに



黄色い竹とんぼに祈りを込めて



「夢の中で会えるよ」と書かれた「黄色い竹とんぼ」後君、静空ちゃんか通っていた首子教室の先生（長澤会長）が、基礎だけになった自宅跡に供えた。（読売新聞：2011年5月2日夕刊）

原発30キロ圏 家族を捜す



行方不明の峻くん（左）、俊丸さん
（写真はいずれも小西さん提供）



亡くなった
静空ちゃん



「このあたりは何十回も捜した」。泥水につかったままのがれきの中を歩きながら、小西康弘さん(37)は顔をゆがめた。「うちのほか息子はまだ出てこねえ」。福島県南相馬市原町区の北郷浜地区。98世帯約400人が暮らす静かな集落だった。あの日、津波に襲われるまでは。



地震発生から「四十九日」の法要に妻の浩美さん（左）と参列し、涙をぬぐう小西さん（4月28日、福島県南相馬市の常福寺で）

津波で流された集落の46人の中に、小西さんの長男・峻くん(12)、長女・静空ちゃん(9)、父・俊丸さん(64)もいた。静空ちゃんは3月22日に遺体で見つかったが、俊丸さんや峻くんら十数人は今も不明のまま。捜索の大きな妨げとなってきたのが、東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故だ。集落は原発から24キロ付近。一帯が屋内避難区域に指定された3月15日には、小西さんらも福島市内へ避難した。以来、5か所の避難所を転々として

いる。それでも、車で1時間半かけて現場に戻り、息子たちの姿を捜してきた。最初の1か月間はほぼ毎日。今も仕事の合間や休日には必ず捜索にあてる。これまで長靴でくぎを3回踏み抜いたが、足をひきずりながら捜

案へ戻った。「原発さえなければ」。これまで何度思ったことか。人手で捜せるところはほとんどやり尽くした。だが、ポンプや重機など大がかりな機材を持たない小西さんらの捜索には限界がある。警察や自衛隊も捜索してくれているが、原発事故の影響がない地域と比べれば、遅れは否定できない。先月28日、市内のお寺で地震から「四十九日」の法要が行われた。娘の姿が思い浮かび、涙が止まらなかつた。息子たち2人を見つけたら、連休中も執念の捜索は続ける。

「息子と親父が待っている。早く見つけてやりたい。あなたを待たない」

写真と文 清水健司

(読売新聞：2011年5月2日夕刊)

(3) ニューヨークタイムス(2011. 04. 10)記載された記事より

City, Destroyed and Yet Hopeful, Begins to Move On

Published: April 10, 2011
(Page 2 of 2)

Ms. Nagasawa, the calligraphy teacher, remembered the boy, Shun Konishi, whom she had taught at school since he was in first grade, as fond of cats — so fond, in fact, that he kept strays, sometimes against his parents' wishes.

She said the girl, Shizuku, acted like a tough tomboy, but was saddened when one stray, named Kuro, died.

The two children were last seen leaving school with their grandfather minutes before the tsunami struck. Their grandfather, Toshimaru, was also missing.

After Ms. Nagasawa returned to her city on Saturday, the children's father, Yasuhiro, had come to see her, in hopes that she had saved some examples of his children's calligraphy. He, too, had lost most family mementos in the waves.

She had nothing to give him. But in her gracefully curving script, she later wrote a letter to the two children.

"Thank you for studying with me," it said. "You used to ask where Kuro was. Now you are together with him. Please look after him there, too."

She placed the letter on the concrete foundation next to the flowers, pinning it with a piece of broken cinderblock against the wind. She and her husband, Takao, pressed their palms together in silent prayer. Suddenly, a bird's chirping broke the hush of the barren landscape

"It's strange how the seasons continue, as if none of this ever happened," Ms. Nagasawa said, glancing up at the blue sky. "Spring comes back, but these little lives never will."

【上記英文訳：長澤会長の娘さん訳】

書道教室の先生である長澤さんは、彼女が教えていた、猫がとても好きで — とても優しく、小学生だった小西シュンという少年を思い出していた — 実は、彼は彼の両親の願いに反し、行方不明のままであった。

長澤さんは、おてんばに振舞った“シズク”という少女のことも話したが、彼女は一時行方不明の後、クロと名付けられた（猫と）死亡し、悲しまれていた。

2人の子供達は、津波が到達する数分前に彼らの祖父と一緒に小学校を出発したのが最後の姿だった。彼らの祖父・トシマルは、未だ行方不明であった。

長澤さんは、土曜日に市内に戻って来た後、子供たちの父親のヤスヒロさんが、彼の子供達の書道のいくつかを保存していた彼女に、希望をもって会いに来ていた。彼は、また、波によって多くの家族の遺品を失った。

長澤さんは彼に何もしてあげられなかった。しかし、彼女の優雅な書道体で、2人の子供達に後に手紙を書いた。

“私と一緒に学んでくれてありがとう”、と述べ“あなたはよくクロはどこを尋ねていた。今あなたは彼らと一緒にいる。どうか彼のこともそこで大切にしてくださいね”

長澤さんは、コンクリート基礎の上に手紙を置いて、次に花を置き、向かい風に対して壊れた軽量コンクリートブロックの破片で固定した。長澤さんと彼女の夫・タカオさんは、手のひらを合わせ共に静かに祈った。

突然、荒れた風景の静寂が鳥のさえずりで壊された。

“不思議な事に季節は続いていて、空前の出来事を乗り越えている”。長澤さんが言い、青空を見上げた。“春はまた来るけれど、これら小さな命は二度と戻らない”。



長澤会長は亡くなった教え子に最後のお別れをするために、大津波で破壊され尽くされた南相馬市の被災地に来ていた。 写真：<http://www.nytimes.com/2011/04/11/world/asia/11grief.ht...>

(4) 長澤先生ありがとう⇔避難先からのお便り

Champ de Luzerno.
ma. je vous remercie

長さわ先生へ

先生、9ヶ月間ありがとうございました。私は、長さわ先生とお習字をやっている時間がとても楽しかったです。私にとってお習字教室は、とても楽しくて、すぐ居心地のいい場所でした。だから、もともと先生とお習字をやりたいかたです。もともとあの時のナンバーでお習字がやりたいかたです。でも、原発のせいで大好きな家にも、大好きな原町にも、大好きなお習字教室にも、大好きな大鰐小学校にも行けなくなりました。そして、楽しくて、ごく普通の生活がおくれなくなりました。こんな事にならなければ、ふたりの生活がおくれとお習字もできたのに、もう長さわ先生とお習字ができないのがさみしいです。でも私は、負けないでがんばります。今通っている学校でも、いっぱい友達ができました。楽しい学校生活をおくれています。山梨に行くのは不安で、いっぱいだけせいで、いっぱいがんばります。そして、お医者さんになるゆめをかなえて、せたいに原町にもどります。それまで長生きしてまわって

下さい。わたしががんばるので先生もがんばって下さい。
長さわ先生♡大好きです♡♡

三浦葉水妃

<住所>
山梨県中央市下三條 399-1
ヴェルディーノ川口102

三浦 葉水妃

いろいろお世話になり、親子共々ありがとうございました。

三浦 里美

今は山梨で頑張っています。「大好きな南相馬市、大好きな長澤先生」に「夢をかなえて」必ず

会いに戻ってきます。

(5)「しあわせの黄色い竹トンボ」について

佐久間光好

1. はじめに

平成23年3月11日、東北地方を中心に巨大な地震・津波が押し寄せた。このことに伴い福島県では東京電力の福島第1原子力発電所に壊滅的ダメージが起こり、短時間で2次、3次災害に及んだ。その影響により死亡者や行方不明者、家屋の全壊など想定できないほどの大惨事に見舞われた。また目に見えない放射能が原発から飛散し、福島県全体あるいは海外からすれば日本全体が風評被害という形で疎外されている。

そのような状況の中で、名阪神大惨事よりもひどいといわれる中で復興の兆しを上げるための取り組みである。

2. 目的

一瞬にしてすべてを失った人たちや、なれない避難所生活をされている多くの人たちにメンタル面からサポートする活動である。

3. とんぼの作成意図

竹の持つ、竹の成長、清涼感、頑強なたくましさ、竹の子を作る力強さ、飛躍・飛ぶ、などの特徴から竹で作った竹とんぼや、トンボ羽から模したピースにハートマークを入れ善意を示す。したがって紙やプラスチック製品では意図に反する。(里山活用でもある。)

5. 期待効果

配布された子どもたちや被災者がいろんなところで見ているんだと世界はひとつの感覚を持ってもらえればよしと考える。活動をひとつの目玉として社会貢献できれば意義がある。

6. その他

「黄色い幸せとんぼ」は社会性を持たせる意味で商標登録を準備している。これは善意の活動を商業ベースから守るためと活動の永遠に続く継続性を狙っている。

商標登録した場合の効果として、全国的に効力が及ぶ商標権が付与され、権利者は誰にでも排除されることがなく、指定商品または指定役務について登録商標を独占的に使用できる。

さらに、他人が登録商標と同一または類似の範囲内で商標の使用等行為をすると権利侵害となり、侵害者に対し侵害差止め、損害賠償の請求することが出来るものである。



竹の秘めた力に託す想い

電気のある生活に感謝する節電

(6) ライフスタイルや社会を見直す機会に

新山敦司



私が抱いているワンちゃんは、原発から5km圏内のワンちゃん
で、1ヶ月間飲まず食わずで生き伸びました。
飼い主さんが持ち出す事ができましたが（スクリーニングして）、
仕事先とすむところは見つかりましたが、社宅の為に飼う事がで
きず、里親として育てています。

新山会員に懐いて安心してありますね。あまりかわいがあると別れが
つらくなりますよ。そこが辛いことです。

←ワンちゃんの里親になった新山会員

東日本再震災による発電所の被災などで、今夏の電力の供給力がピーク時の需要より90万～170万キロ・ワット不足し、最大で約12%足りなくなる見通しがあきらかになった。

私たちが電力供給を受けている東北電力でも、震災の津波で、女川原子力発電所や太平洋沿岸部にある仙台火力、新仙台火力など三つの火力発電所が停止した。発電能力の約4割が失われ、復旧のめどは立っていない。

その中で、政府は「夏期の電力需給対策の骨格」に基づき、供給力の積み増しと需要面での対策の具体化を進め、行政、事業者、国民が一体となった電力需要対策を行うことになった。その目標値は前年比15%削減と発表された。

これは、「電気事業法第27条」によるものであり、大口需要家（契約電力500kW以上の事業者）に関しては、その目標達成の為、あらゆる手段を検討し目標達成する事が社会的な責任として求められてくる。さらに、小口需要家や国民にも努力義務が課せられる。

日本全体が、今年の夏の電力不足に取り組んでいくのである。その必要性は否定しないが、大事な事を忘れていたような気がしてならない。

今回の電力不足で、みんなが工夫して計画停電も最小限で乗り切ってきた。私は、努力次第で、不足する電力は賄う事が出来るかもしれない、今までの電力やエネルギーに依存しすぎた暮らしを見直していくチャンスだと思っている。

自動販売機は溢れ、深夜でも営業しているお店、ピカピカ光り大音量を放つパチンコ屋さん、夜でも昼間と間違ほどの明かりに包まれた繁華街、家庭に溢れている家電製品・・・会津地方でも増えているエアコン・・・少し工夫すれば無駄な電力が削減できる。現に、多くのスーパーでは天井照明や看板照明を消して営業しているが、何の違和感もない。スーパーでは、昨年より10%～15%もの電力削減ができていると聞いている。家庭でも、今年に夏はエアコンの温度設定を見直す人も多いと思う。緑のカーテンを実施する人も多いようで、ゴーヤの苗が人気である。震災以降、自転車通勤をする方も増えているようだ。



新山 敦司 会員

私たちは、これまで何度も家庭での省エネを呼び掛けてきていたが、今年こそ効果が表れるだろうと期待している。

その省エネに対して、各企業や環境省、経済産業省などは、啓発ツールなどを発表しているが、「くらしの見直し」まで踏み込んでいるものがあまり見当たらない。もちろん、電力不足に対する努力は大事な事ではあるが、これまで使い放題だった電力やエネルギ

一に対して、本当に必要なものだけを使う、あるものを工夫して使う事について改めて考え直す必要があるのではないかと思います。



電気に頼り、大量消費が当たり前のようなライフスタイルや社会を見直す機会にするべきだと考える。

原発を停止させても、私たちが電力とエネルギーの将来を考えた行動を行い、休眠している火力や水力発電を稼働させ、自然エネルギーのコストを下げて普及していけば、電力はまかなえるのではないかと考える。まさに、『もったない』を実践していく、日本人の暮らし方そのものを見直していくチャンスであると思う。今回の「節電」電力不足の対応だけでなく、「私たちの普段の生活のあり方が問われている」と考えていくべきだと思う。

その意味で、私達「環境カウンセラー」に求められているものは大きなものであると考えている。

(7) 災害復旧ボランティア活動

事務局次長 相楽 昌男

3回の支援作業：近い所だけでしたが、避難者の苦痛が身にしみます。

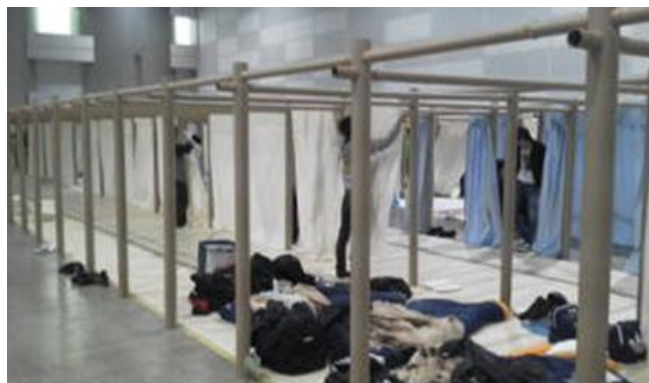


①四倉道の駅

4月16日逢瀬川の活動メンバーといわき道の駅四ツ倉で、地元のNPO運営の道の駅の産直販店再開の手伝い及びいわき地区の被害視察

②ビッグパレットふくしま

4月21日、郡山で最大の避難所になっているコンベンションセンターのビッグパレットで、社団法人日本建築家協会（JIA）が中心になって、東京の建築家の坂茂さん、慶応大学と日大工学部の学生数十人、地元の建築関係者で避難された方達の居住エリアのパーティションを段ボールとカーテンの間仕切作業をしました。



③勿来地区災害ボランティア

4月30日～1日、身内といわき市勿来地区災害ボランティアセンターへ行って、津波で被災した地区の海岸の瓦礫集めや側溝の泥さらい作業など。全国各地（香川・大阪・富山・埼玉・東京・長岡など）から集まっていました。

■食と地域の交流促進対策交付受託

震災前に認定 NPO 法人自然環境復元協会を通じて「田舎で働き隊」逢瀬町地域協議会」として申請。私は運営責任者として参加しています。説明会があり、震災の影響で、目的を「被災者支援」優先になりました。現在検討中ですが「障害者を含む被災者受け入れ」を「癒し、住まい、体験」を NPO や県市農政課と連携しながら、ホテルやメダカのいる里山地域で実施予定

- 課題として、放射能問題では住民の混乱ぶりは相当でしたが、「分かりやすく説明してくれる人が少ない」といわれましたが、中立的で客観的な情報の提供できる「インタープリター」の役割が求められている中で、当会も検討が必要と思われます。
- ほかに未確定ですが、日本建築家協会や大工、NPO、農家など活動組織で石川地区で「復興まちづくり」が検討中で協力するかも知れません。

ご近所さま 各位

(8) 元気なふるさとを創る会からのメッセージ

先崎 福義

みんながんばれ がんばろう福島、負けるな東北

と日本がひとつのチームとなり復興に向けスタートしました。「地域で出来ること・私たちにできること」を合言葉に一緒に活動しませんか

活動その1 家庭での消費電力を最小限に抑える行動に挑戦

効果：全国的な電力不足が解消される。（環境家計簿の活用）
みんなでがんばれば日本の原発一基が止められる。
二酸化炭素を抑制して 地球温暖化対策が推進できる

活動その2、生活環境活動の推進（木戸前清掃活動・花咲かせ運動の実践）

効果：景観が良くなり「地域がひかり・住む人が輝き」地域の魅力が発信できる
地域おこしの起爆となる。

活動その3、正しい情報に従い風評被害に惑わされることなく平常心を保ち行動する。

効果：地域の伝統と歴史が守られる。皆が同じ目標に向かう事により連帯意識と安心感が手に入る。生活の環境をこれ以上悪化させない。

地域の守りたい景観と伝統の一部紹介

黒甫不動滝（里の案内人）



地蔵様まつり（子供たちの無病息災を願うお祭り）



(9) 非常事態が見えていないことの恐怖**青木 敏春**

福島原子力第1発電所で起こった事故のテレビ映像を見つめていた日々の緊張感が薄らいで、今は収束に向かうのではないかと信じたい。また現場で目に見えない放射性物質の恐怖と必死に戦いながら責務を全うしている最前線のオペレーターや多くの現場作業員には感謝の気持ちで一杯である。

それでも普通のテレビ放送を見ているような感覚に陥ってしまうのはどうしてだろうか。そこには解説的な話しか出てこないからではないかということに気付かされる。他人事のような状況説明が多く、**ゲスト解説者の多くは原発容認派**であり、今まで原子力研究に携わってきた成果を否定することなどできるはずもなかったのである。当然思い切ったことが言えないことはわかりきったことである。原発推進者であることがこの期に及んでも、なお安全であるかのようなコメントは一層現実の原発の大事故を矮小化して真実に焦点を当てていない。当事者である東電幹部の報告は、現場の必死の思いが伝わらないまま、あたかも傍観者であるかの如くさめたクールささえ感じるとき、そこには原発事故という極めて危うい不安定な生き物をコントロールできない苛立ちが渦巻いて、居た堪れない気持ちになる。なぜもっと国の総力が結集できないのか。収束要員として東電では1万人体制を創れない。それでも足りないのではないかと思うとき二千人体制はあまりにも少ないし、個人の被曝負荷が大きすぎるのではないだろうか。

時間的な観念が極めて不足しているため全てにタイムラグがありスピーディーに事が運ばない。非常事態であることすら忘れてしまうほどのんびりした対応のように思えてならない。非常事態への対応があまりにも平然とし過ぎているのではないだろうか。

そのように感じるのは私だけであろうか。瀕死の重傷を負って止血しなければならぬ時、経過を観察しながら止血方法を議論しているときではないはず。現在考えられる全ての処方箋を用いて人海戦術で止血しなければならぬのではないかと考える。

情報をただ受けとって広報するだけで、役目を果たしていると勘違いしている人がいる。責任を取りたくないためなのか、それとも全く無知なのか分からないがそういう人が仲介していることに空しさを感じる。事務的に立场上報告している人たちには何も解決する力がないように見える。

多くのテレビ局で専門的な立場で解説している人も、状況の解説しかしていないにも関わらず、あたかも原発に精通しているかのように振舞うが、考え方を一切示さない。視聴者に問いかけようともしない。あくまでも中立的に保守的に一定レベルの真相を報道しようとする平然とした態度が、一層有事の報道の仕方を知らないのんきさがある。国民の思いをもっと強く主張して、一日でも早い収束に向けた解決策を模索する努力をすべきではないか。何が起きても当事者ではないから、よき理解者の域的解説者の域に留まってしまおう。誰も燃料棒のメルトダウンを想定しなかったとしたらそのほうがおかしいのではないかと思うのである。

日に日に原子炉周辺の模型が精巧に描き出され懇切丁寧な解説が加えられる中で、その状況を皮肉るように日に日に原子炉の深刻さだけが增加していくのを見守る日々が続いている。

これからは、大気、土壌、水中にばらまかれた放射性物質の監視をしっかりとしながら、**気の遠くなるような地道な取り組みが始まる**。ふりかかったリスクは現実を直視し、少しでも回避できる道を探しながら進むしかない。できる限り被曝はしないようにすべきである。すぐには被曝の影響は現れないからといって無頓着に普通の生活はできない。特に内部被曝は避けなければならない。少しでも回避するための方法を探り、お手伝いすることが私にもできることだと思っている。



車窓から見る南相馬市の津波の痕跡



小名浜港：津波による漁船の被害

3. 環境カウンセラー協会活動報告

(1) NPO 法人研修会及び懇親会について

副会長 樽井俊二



樽井俊二副会長

福島環境カウンセラー協会が、今年の2月に NPO 法人化を記念して、勉強会と懇親会を開催いたしました。一年中で一番寒い時期の2月27日（日）から一泊で、昨年と同じ郡山市磐梯熱海温泉の「かんぽの宿・郡山」で行いました。

当日は、勉強会に出席された方が16名で懇親会参加者は14名でした。

勉強会については、NPO 法人としての当協会の今後の活動をどのように進めるべきなのかを、会員皆が共有することを目的に午後4時から行いました。そして、勉強会では、NPO 法人いわき環境研究室の橋本孝一理事長から、

「NPO 法人の活動について ～NPO 法人いわき環境研究室の経験から」と題してご講演をいただきました。

講演の内容は、NPO 法人いわき環境研究室を立ち上げてから、どのように活動してきたのか、その活動に際しての苦労話や壁にぶち当たった時の解決手法などについて、貴重なご経験を基にお話をいただきました。また、先崎武当協会の名誉会員からは、「今後の環境活動の方向性について」と題して、国の平成23年度事業計画に基づき、貴重なご講演を頂きました。

幹事としては、勉強会を部屋の中で行うことを考えておりましたが、出席者が予想より大きく上回ったため、急遽、ホテルの会議室をお借りした次第でした。お陰で、中身の濃い有意義な勉強会となりました。

また、出席された会員は皆熱心に講演に聞き入り、質問も沢山出されました。時間の中では十分に質疑応答が出来ませんでしたので、懇親会に席を移して納得の行くまで勉強会をした次第でした。懇親会は、何時ものように盛り上がり、酒も大分消費いたしました。年は取っても昔鍛えた酒豪の皆様には、ただただ敬服するばかりでした。



先崎武名誉会員



NPO 法人いわき環境研究室の
橋本孝一理事長



研修会参加の会員の皆さん

また、懇親会では、皆様の今年一年の活躍の状況などについてご報告を頂きました。「さすが環境カウンセラーだなあ」と感服するばかりでした。それに、各自自慢話しになると、時間の経つのも忘れてお話をしている様子は、若々しいファイト溢れる年寄りという感じでした。

2次会は、会場を幹事部屋に移して12時過ぎまで議論をいたしました。酒が入り夜が更けると、頭が冴えてくる会員もおり、議論が白熱した次第でした。

次の日の朝は、せっかく集まったのだからと更に約1時間に渡り、当協会の今後の活動について中身の濃い意見交換をいたしました。今年も、大変有意義な勉強会と懇親会でした。

来年もこの時期に、皆でお会いすることを誓い午前10時前に解散いたしました。

今回の幹事役 樽井俊二

(2)平成22年度の事業活動報告

事務局長 鈴木 一



1. 平成 22 年4月「エコフェア in みなみそうま」へ6名参加（うち講師1名）（道の駅南相馬）
「竹と環境問題」について講演
2. 7月 環境カウンセラー応募支援セミナー主催（郡山ユラックス熱海）
講師：先崎 武 氏 他 スタッフ4名参加
3. 8月 エコアクション21説明会・相談会主催 講師等3名参加（いわき市ラトブ）「EA21地域事務局やまがた」共催、いわき市・いわき産学官ネットワーク協会後援

ふくしま環境・エネルギーフェア2010で
パネリストとして質問に答える鈴木一事務局長

4. 9月、2月～3月 エコアクション21説明会等へ講師派遣
9月：福島県環境センター主催のエコアクション21説明会・相談会へ講師5名派遣
2月～3月：エコアクション21地域事務局やまがた主催のEA21グリーン化プログラム
へ講師3名派遣
5. 10月 「ふくしま環境・エネルギーフェア2010」へ出展 8名参加（うち講師1名）
ブース出展（竹・草木工作コーナー、省エネ・環境カウンセラー・EA21コーナー等）
新エネルギーシンポジウムのパネリストとして「新エネ導入の方策」について講演
6. 11月 「エコフェア in そうま」へ参加・講師等4名派遣（スポーツアリーナ相馬）
「地球温暖化問題」等について講演
7. 11月～3月 「福島議定書」の省エネ診断アドバイザー9名派遣、講師2名派遣
平成23年1月：「省エネセミナー」において省エネ診断事例について報告
8. 平成23年2月 「いわき生涯学習フェスティバル」へ講師2名派遣（いわき生涯学習プラザ）
9. 2月 ふくしま環境活動支援ネットワーク情報交換会へ参加1名（杉妻会館）
県内NPOなど21団体参加、NPO法人福島環境カウンセラー協会をPR
10. 2月 福島県の「エコオフィス実践計画」へアドバイザー2名派遣
県南保健福祉事務所、会津地方振興局（合同庁舎）、いわき光洋高校の3庁舎を診断
11. 平成23年2月 NPO法人格取得

【 経緯 】

平成22年5月30日 平成22年度定期総会にてNPO設立を議決
6月30日 第1回設立発起人会 開催《設立準備委員会》委員：13名
8月12日 第2回設立発起人会 開催（設立準備委員会）
9月26日 設立総会 開催
10月～ 設立認証申請、登記、設立登記完了届

平成23年2月15日 NPO法人格を取得

12. その他

- 1) 平成22年5月 福島環境カウンセラー協会機関誌（創刊号）発行
- 2) 平成23年2月 勉強会&懇親会 開催 16名参加（簡保の宿こおりやま）
講師：橋本 孝一 氏（NPOいわき環境研究室 理事長）

(3) 地域の活動状況報告

先崎福義



先崎 福義 会員

地域の活動に密着した取組みが活発に行われていて、みんな楽しそうです。

企画して実行するには苦勞が多いと思いますが、大盛況のうちを終了していますので、良い思い出として感慨深いものになっていると思います。

いつまでたっても忘れられない故郷の景色が、このような思い出とともに綴られているからこそまた帰って来なくなるのでしょうか。

何も環境と銘打って行う活動が環境カウンセラーの役割ではなく、住んでいる地域のことを大切に思う心が育まれていくことに積極的に係ってしていくことが環境を守ることに繋がっていくのだと思います。

地域交流イベント

8/15 元気なふるさとを創る会主催「ワンコイン食い道楽」地域活性化事業の目的でお盆で帰省した方々との交流のイベントの開催

(清流流しそーめん)

(ニジマスつかみどり大会)

(手づくり品の店)



小学校児童と共に「里の案内人」を結成

地域に眠る歴史、史跡を子供たちと探索地域住民に発表する。

(地域の名所)

(愛宕神社)

(田の神様)



地元小学校での学習田



小水力発電の里づくりに挑戦

直径3.5メートルの水車を利用して小型発電装置を可動、発生した電力で時報を音楽で報せることに挑戦「里の水ぐるま」と名付け住民の憩いの場として公園整備しました。

(里のみずぐるま)

(郡山市花いっぱいコンクール入賞)

(憩いの公園整備)



(4)「しあわせの黄色い竹トンボ」に託す想い

佐久間光好

「竹・笹で何が出来るか」の疑問に問いかけて又1年過ぎてしまった。昨年は竹・笹の分布調査で、中国の西安とベトナムへ出かけ、今年は台湾北部をゆっくり眺めてきた。

西安は福岡と同じ位の緯度であるが、極端に竹稈の太さが細く、孟宗竹に慣れているとひ弱さを感じず。しかしながら中国の皇帝などの居住エリアには必ず植栽してあり、目立たないところにあるのを見つけたときにはうれしさを覚える。気候的には寒いから、笹の種が多いかなど思っていたが、実際は黄土高原の影響下で水分が不足により成長が進んでいないのかなと結論づけた。しっかりとシルクロードの出発点で持参した竹とんぼと飛ばし、地元との交流を深めた。



ひとつひとつに想いの込められた竹とんぼ

ベトナムは南方独特の太い竹が（バンブーなのだが。）多く、気象条件とうまく合致していると感じた。ベトナム戦争での枯葉剤の影響を主に見て回ったが、爆心地跡にもしっかりと復元されていた。緑とキイロの美しいキンメイ孟宗（バンブー種）が道路の花壇に植えられ、きれいな町並み（ホーチミン市）を作り上げていたのが印象的。

台湾は竹の豊富なところであるが、台北市にはあまり見かけなく、尖閣の話題になっていた時期でもあったので北部海岸から山手に入ってみた。テレサ・テンの眠っている台北最大の墓地があるがその辺まで登ると毛竹系の太い竹と出くわす。海岸の標高0m地帯は笹が少し繁茂している程度である。それと台北市内には地上300mくらい（忘れてしまった。）のビルがあり圧巻であるが、このビルのデザインは孟宗竹を模した物で巨大な竹の怪物であった。ここでも竹とんぼ外交をして、台湾・台南にある台湾青少年博物館で子どもたちを集めてイベントするかという話をしてきた。いずれ「夢」がひとつ出来たようである。



寄せ書きされた幸せの黄色い竹とんぼを披露する長澤会長と佐久間会員

定着してきた福島県主催のエコ・エネルギーフェアは昨年も盛況で、国内の珍竹を持ち込んで実践環境教育を行った。竹稈の節が斜めのもの、らせん状になったもの、表皮が凸凹のシボ竹などを身近な孟宗竹やハチクと比べて、手に触れて感じてもらった。インドから来た方とも交流できインドの竹のお話も聞けて、こちらも勉強させていただいた。（詳細は2011.8論文にて発表予定。）

南相馬での環境学習をすべく準備していたところ、東日本大震災が発生しかなりのダメージがあった。急遽今年の実施は中止となったので被災地の状況を調査、現在纏めているところである。

一日も早く、青空に向けて飛ばせるように、やがて自分たちも立ち上がり飛び立つように、そう願いつつ。

全国や海外からの暖かい声が寄せられ、何とか伝える術がないか考えていたら、家に来た南相馬の子どもたちが竹とんぼで楽しそうに遊んで帰ったので、竹の実直、まっすぐに伸びる、早い成長をもらって「幸せの黄色い竹とんぼ」をひとつづつ心込めて作っている。

震災後2ヶ月になるが500個の「幸せの黄色いトンボ」と700個の「竹メッセージピース」が私の手元を離れた。合掌。

(5) 小学校への環境出前講座

長澤 利枝



南相馬市立鳩原小学校環境出前講座 (6年生)

長澤会長の授業風景

環境の出前講座では生徒が生き生きして楽しく授業が進められていますね。どのような内容だったのでしょうか。地球環境の問題をわかり易く魔法の紙芝居を交えてお話ししていた様子などが、お礼の手紙からも窺えます。地球環境のマクロからミクロへと展開されていき、自分たちにできることとして締めくくられているのでしょうか。


長澤会長の授業は身近な出来事に焦点が当てられ印象に残るお話や役に立つことのデパートだったのではないのでしょうか。

そんな魔法にかけられて、最後のキーホルダー授与に至るまで、生徒の心を驚づかみにして離さない絶妙なテクニックと、魔法の本当はやさしい気持ちが伝わってきます。



長沢さん、忙しいところ鳩原小学校へ
お出で頂きありがとうございました。

今実際に起きている地球環境のことが
よくわかりました。魔法の紙芝居が印
象深く残りました。最後に素敵なキーホルダーを頂
きとても、うれしかったです。機会がありましたら、
ぜひ来てください。遠藤 勇也





会長は魔女だったのです。

長沢 利茂さん

この前は、お忙しいなか鳩原小学校に来ていただき
ありがとうございました。おかげで地球温暖化につ
いて、いろいろなことが、知れてよかったです。

それに、紙芝居が手作りできていてびっくりし
ました。ミゴミゴマーゴのお話もおもしろかった
です。もらったキーホルダーは、さっそくつけまし
た。右の絵は、白クマが地球温暖化で住む場所が
なくなってしまったときの白クマです。末窪 芳美



HOT SUMMER HOT SUMMER

会長へお礼の手紙が文集となって届けられました。
(二つ紹介しました)

(6) エコアクション21及び省エネとコミュニケーションについて 事業活動に必要なもう一つのアイテム

副会長 片平 大造



EA21 普及セミナーで講演する片平副会長
(会津若松技術支援センター)

エコアクション21 (以下「EA21」という。)の
グリーン化プログラム (以下「GP」という。)は、
昨年度に引続き平成22年度も「あいおいニッセイ同
和損害保険(株) GP」として規模(5社)は小さくなっ
たが、平成23年1月21日からスタートした。しか
し、平成23年3月11日の東日本大震災により中断
を余儀なくされているが、1日も早い再開を目指し
て調整中です。また、新たなGPとしては、福島県
環境整備協同組合連合会及び(社)福島県産業廃棄
物協会と調整中です。

福島県主催「EA21 説明会・相談会」は6年目になり、平成22年度も会津(9/29)・郡山(9/30)で
開催され、当協会のEA21 審査人が説明及び相談員として協力をしましたが、同じスタイルでマンネ
リ化の状態なので、県当局へは「自治体イニシアティブ・プログラム」への移行を強くお願いして
おり、自治体主体のEA21 への取組みを期待している。

その他のEA21 に係る事業としては、EA21 ガイドラインが2004年版から2009年版に改訂された
ことによる「EA21 認証・登録事業者向けGL説明会」を郡山(9/17)で実施した。

県から当協会が受託して実施した省エネ診断には、小生も5社程診断に参加させて頂き、参加会員
の皆様大変ご指導頂いた事をEA21 も含め心から感謝申し上げます。

平成22年度のEA21 及び省エネ診断の審査・アドバイスで、強く感じたことは、内部コミュニケ
ーションの不足であった。チームを組んで目標を達成する時、一番大切なことは情報の共有化ですが
これが非常に足りない。チームの一員となった者は、遠慮なくチームリーダーに不安なこと及び現在
の状況について聞く、リーダーはチームの現状・状況を積極的に伝え、チームの不安をなくし各自が
自ら状況を判断し行動できるようにする。

このようなことを、各自がリスペクト(尊敬)を持ってチームメンバーに接することができれば、
必ず目標・目的は達成できると思う。

適材適所の人材登用とよくいうが、チームメンバーを真摯に応援することも適材適所の人材登用で
あり、このことは誰にでも重要な役割があるということである。

サッカーのアジア杯で優勝したザッケローニ監督も「一番大事にしていることは、コミュニケーシ
ョン」といつている。

日本及び福島県は東日本大震災と原発事故で大変困難な時ですが、日本人の和の心を大切に、本当のチームの力を発揮できれば必ず今以上に立ち上がれると信じます。和を持ってコミュニケーションとチーム力で立ち上がりましょう。

Forward together as one Japan (心をひとつにして、がんばろう日本) がんばろう福島!

(7) 省エネアドバイザー事業の推進

青木 敏春

福島議定書省エネアドバイザー事業は、地球温暖化防止推進センターが県から委託を受けて、省エネ診断ができる専門家として、環境カウンセラーで専門分野が「エネルギー」に該当する9名に委託して実施された。平成22年度は福島議定書参加事業者で省エネ診断を希望する事業者に対して、省エネアドバイザーとして派遣され省エネ診断を行いました。



平成22年度は約35社程度の応募があったものと思われま。主に中小事業や大学等が抱える経費削減の課題解決に向けた支援として、省エネアドバイザーが企業を訪問し、省エネ相談を行い、きめ細やかに省エネの取組をアドバイスします。

省エネルギーの取組を進めることは、エネルギーコストの削減に繋がり、直接経営に係ることになりますので責任があり、より具体的な削減提案ができるように心がけました。

経費削減を目的としたエネルギーの管理体制の構築や方法、改善策の提案、補助制度の紹介などをアドバイスしました。

バルブからの放熱によるエネルギーロスを診断し、後日報告書で具体的にアドバイス (事例発表より)

福島県内の事業者の皆様

平成22年11月

地球温暖化防止のための福島議定書事業

省エネセミナー開催のお知らせ

〔日時〕平成23年1月17日(月) 13:30~15:30

〔場所〕ビッグレットふくしま 3階 中会議室A

省エネルギーの実践は、事業所の環境対策だけではなく、コストダウンや無駄をなくすことにもつながります。企業の皆様の新たな取り組み内容の参考としていただくためのセミナーを下記のとおり開催します。ぜひ、ご参加ください。

◇開催概要◇

第1部 【13:30~14:30】

省エネセミナー (省エネ診断・省エネの進め方・省エネの最新動向)

講師: エネルギー使用合理化専門員 栗田晃一氏

第2部 【14:30~15:30】

福島議定書省エネアドバイザー診断事例の紹介 (2事例)

発表者: 福島議定書省エネアドバイザー (鈴木一氏、青木敏春氏)

省エネアドバイザーが実際に行った活動内容について、地球温暖化防止推進センター主催で、省エネセミナーが実施されました。このセミナーの中で事例紹介を2例実施しました。

1. 工場等の製造業関係の省エネ診断
2. ビル等の非製造業の省エネ診断

省エネアドバイザーの仕事は表面的なことだけでなく、具体的なエネルギーの削減につながる的確なアドバイスになるように実施する必要があり、事前調査を踏まえて、かなり専門性の高さが要求されました。

2010年度 県登録省エネアドバイザー

片平大造 鈴木一正 鈴木一 渡邊邦雄 新山敦司 佐久間光好 中西恒雄 長尾晃 青木敏春


【編集後記】

福島県は、震災・津波・原発事故・風評被害に遭遇し、取分け未曾有の大津波に襲われている中、会員各位の福島を思う気持ちが行間に溢れております。会員の皆様には、お忙しい中での寄稿ありがとうございました。おかげさまでFEC協会報第2号が発行できました。

今回の協会誌は東日本大震災後間もない時期に発行することになりまして、余震の続く中うまく発行できるかどうか心配しながらの編集でした。

会員の皆様がそれぞれの立場で、対象と真摯に向かいあっている様子に心を打たれます。励まされながらの編集でした。

NPO法人発足の年でもあり、記念すべき協会誌が発行できてよかったと思います。

 <p>自然エネルギーのある風景</p>	<p>福島環境カウンセラー協会報 (FEC 協会報)</p> <p>第2号</p>
	<p>平成23年6月19日</p> <p>発行 福島環境カウンセラー協会</p> <p>発行責任者 長澤 利枝</p> <p>事務局 鈴木 一</p> <p>編集担当 草野 信 青木 敏春</p> <p>連絡先 NPO法人 福島環境カウンセラー協会 事務局長 鈴木 一</p> <p>いわきeco・コンサルタントオフィス内 〒970-8026 いわき市平字田町120番地 LATOV6階 いわき産業創造館M5 Tel/Fax 0246-68-6397 E-mail dd8h-szk@asahi-net.or.jp</p>